

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(50歳代女性)ありました。症状はありません。感染地域は国内、感染経路は不明です。本年の累積報告数は3例となりました。

発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。

○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>

- A型肝炎の報告が1例(20歳代女性)あり、症状は全身倦怠感、肝機能異常等です。感染地域は国外(バングラディシュ)で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は2例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が2例(80歳代及び100歳代の女性)ありました。いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は26例となりました。
- 梅毒の報告が3例(20歳代男性2例、40歳代男性1例)ありました。いずれも感染経路は国内で、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は17例となりました。

梅毒は早期の薬物治療で完治できますが、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置すると、脳や心臓に重い合併症を引き起こす危険があります。感染予防のために、性行為時にはコンドーム等を適切に使用しましょう。性器や口腔周囲に異変を感じたら、性行為を控え、速やかに医療機関に相談し、早期発見・早期治療することが重要です。

京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。

○京都市情報館「京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変更しました。)」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>

- 百日咳の報告が3例(10歳未満女性、10歳代女性、40歳代男性)(12週追加報告分1例含む)あり、症状は持続する咳、夜間の咳き込み等です。感染地域は国内で、本年の累積報告数は21例となりました。
- 風しんの報告が1例(20歳代女性)あり、感染地域は国内です。本年の累積報告数は9例となりました。

◆ 今週のトピックス: <性感染症>

性的接触で感染する感染症を性感染症といい、多くの疾患がありますが、感染症法上五類感染症に分類される6疾患について、2018年の動向を過去10年間で比較しました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 1例(肺結核 1例、その他結核 なし、潜在性結核感染者なし)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 66例(肺結核 23例、その他結核 16例、潜在性結核感染者 27例)うち喀痰塗抹陽性 14例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数3例】
- 四類:A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 26例】
- 五類:梅毒 3例【1月以降の累積報告数 17例】
- 五類:百日咳 3例【1月以降の累積報告数 21例】
- 五類:風しん 1例【1月以降の累積報告数 9例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69、小児科定点43、眼科定点10、基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	1. 16	80
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6. 91	297
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 98	42
	③ 伝染性紅斑	0. 86	37
	④ 水痘	0. 28	12
	⑤ 咽頭結膜熱	0. 23	10
眼科	流行性角結膜炎	0. 00	0

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <性感染症>

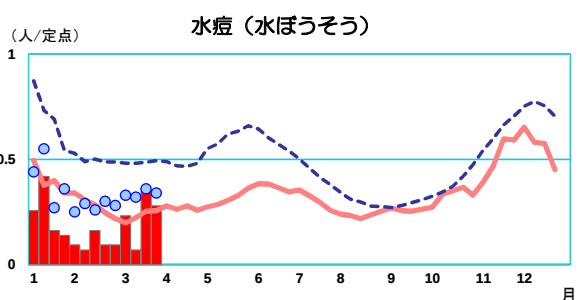
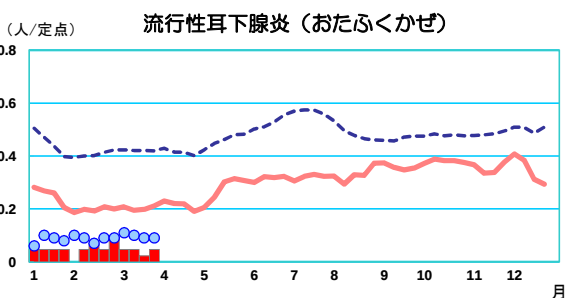
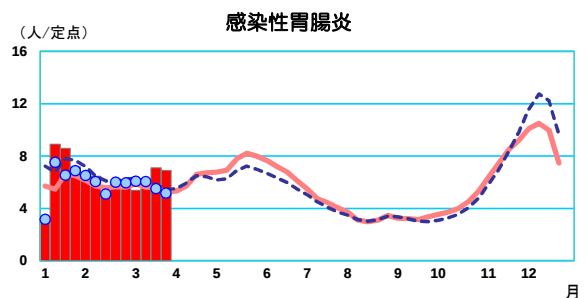
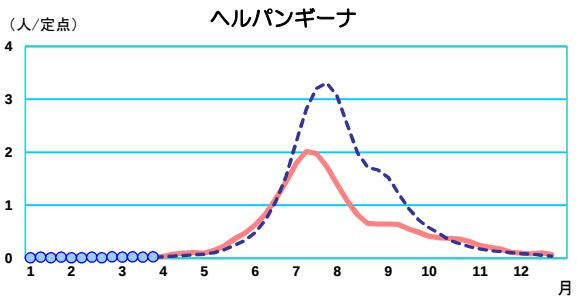
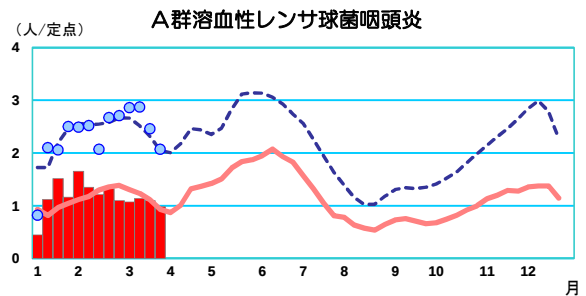
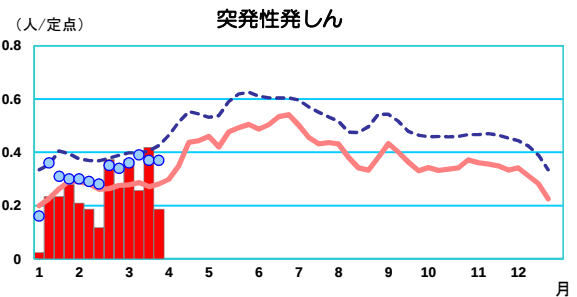
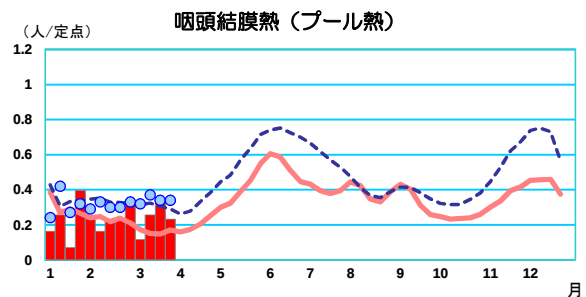
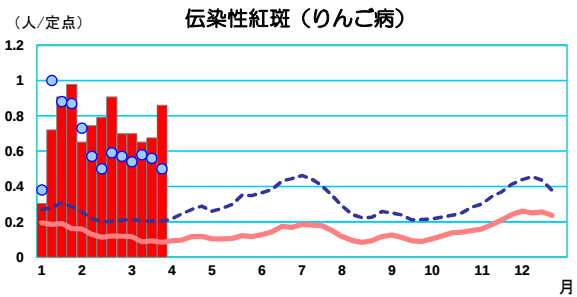
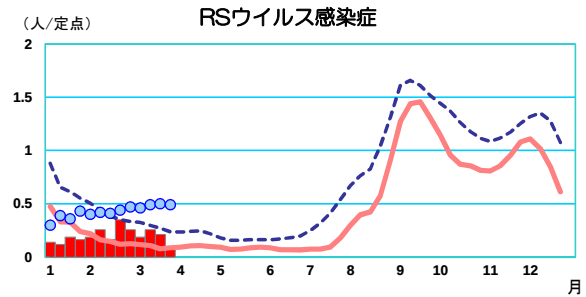
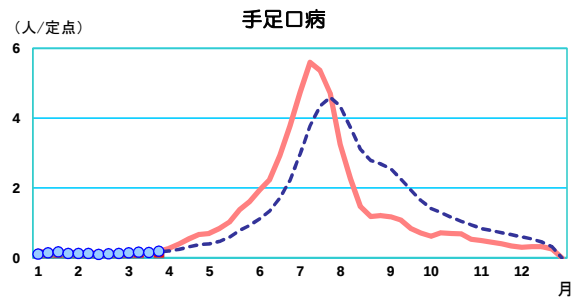
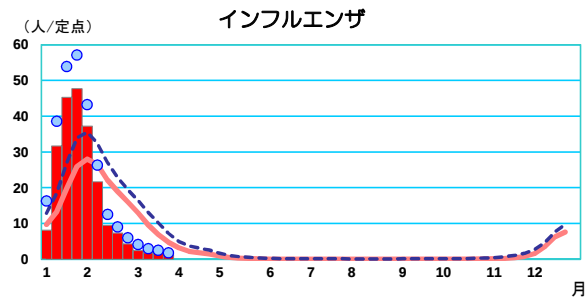
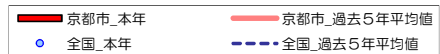
付表(疾病、行政区別報告数 / 年齢階級、疾病別報告数 / 週、疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年4月3日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第13週(3月25日～3月31日)トピックス: <性感染症>

性的接触で感染する感染症を性感染症といい、多くの疾患がありますが、そのうち、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症の4疾患は、感染症法上、五類感染症の定点把握感染症(性感染症定点医療機関が月単位で報告)に指定されています。京都市では13(産婦人科7, 泌尿器科4, 皮膚科2)、全国では約1,000の定点医療機関から毎月報告があります。一方、梅毒及び後天性免疫不全症候群の2疾患は五類感染症の全数把握感染症に指定されており、診断した全ての医師から報告があります。これら6疾患の2018年の動向を過去10年間と比較しました。

まず、定点医療機関から報告される4疾患の推移を見ると、性器クラミジア感染症は、京都市及び全国で過去10年間はおおむね横ばいで、2018年は前年よりわずかに増加したものの、同様の傾向でした。(図1)。性器ヘルペスウイルス感染症は、京都市では2012年からの減少傾向が2015年以降増加に転じていましたが、2018年は大きく減少しました。全国では過去10年間横ばいないし微増傾向で、2018年も同様の傾向でした(図2)。尖圭コンジローマは、京都市では2017年に大きく減少しましたが、2018年はわずかに増加しました。全国では、期間を通じて横ばい傾向にあります(図3)。淋菌感染症は、2018年を含め、期間を通じて京都市では横ばい状態、全国では横ばいないし微減傾向となっています(図4)。2012年以降は京都市の定点当たり報告数は、どの感染症も全国を下回っています。

次に、全数把握感染症である梅毒と後天性免疫不全症候群の推移を見ると、梅毒は、京都市では2013年までは10例を下回っていましたが、2014年に10例を上回って以降、急速に報告数が増えています。2018年は若干報告数が減ったものの、依然高い値で推移しています。全国では2013年に1,200例を超えてから増加傾向となり、京都市同様、ここ数年は急速に増加し、2018年は7,000例を超えました(図5)。後天性免疫不全症候群は、京都市では年によって違いはあるものの、9例から22例の間で推移しています。全国では横ばいで、2018年は前年より減少しました(図6)。

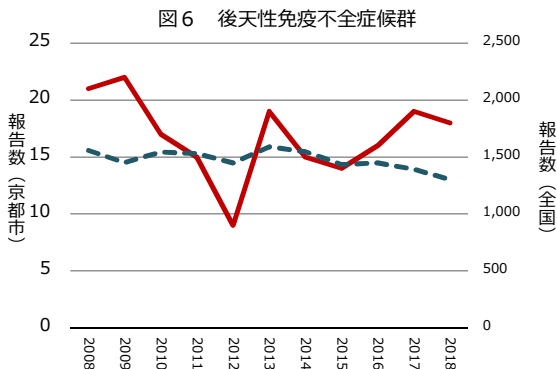
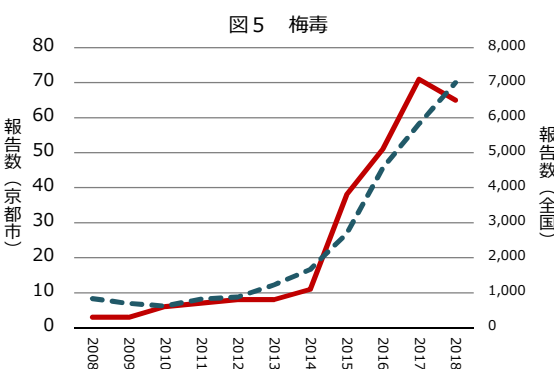
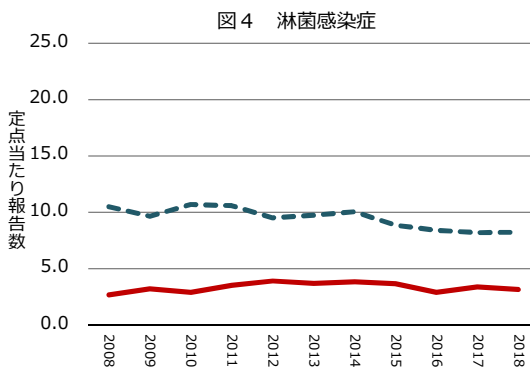
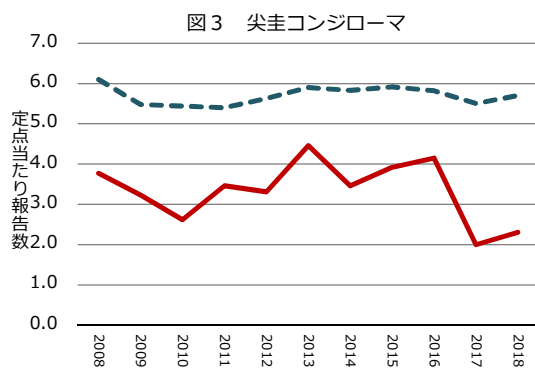
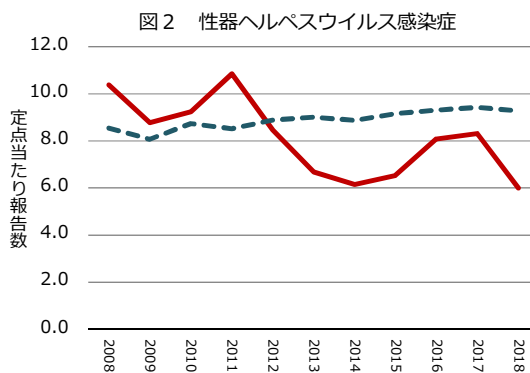
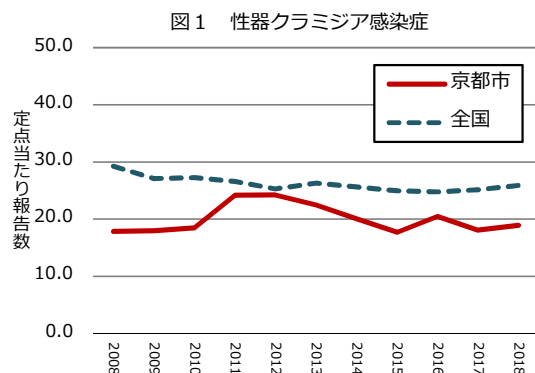
性感染症の推移で、特に注目されるのは梅毒です。近年の梅毒の発生動向は報告数の増加だけでなく、20代女性の割合が増えているなど、性別や年齢別の構成比が大きく変化しています。背景には不特定多数との性行為の増加があると見られています。感染経路が性的接触のため、複数の感染症に同時に罹患する場合もあり、梅毒の急増は他の性感染症も増加する可能性を示唆しています。

ほとんどの性感染症は薬で治療できますが、一旦完治しても何度でも感染します。また、後天性免疫不全症候群や性器ヘルペスウイルス感染症などは根治できません。このため、不特定多数の人と性的接触をしないことや性行為時にコンドームを使用することなど、予防が非常に重要です。予防していても、皮膚や粘膜に異常があった場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

性感染症の正しい知識を身につけることも重要です。京都市衛生環境研究所では、機関誌「京都市衛生環境研究所にゆえす」で、梅毒を含む性感染症について病気の症状や予防方法等を分かりやすく御紹介しています。ぜひ御覧ください。

【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゆえす(平成29年度第1号)「性感染症」って何？

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第13週

疾病,行政区別報告数

2019年3月25日～2019年3月31日

データ入手日:2019年4月3日

	インフル エンザ (※1)	R S ウィルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌 性 髄 膜 炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プラ ズ マ 肺炎	クラ ミ ジ ア 肺炎 (※3)	感 染 性 胃 腸 炎 (※4)
男女合計																		
北	6	1	-	-	5	1	-	-	-	-	-	-	-					
上京	6	-	-	3	10	-	1	3	1	-	-	-	-					
左京	7	1	-	4	34	2	1	2	1	-	-	-	-					
中京	1	-	3	3	19	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	5	-	-	2	25	-	-	-	-	-	-							
山科	5	-	-	2	3	1	-	4	1	-	-	-	-					
下京	7	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-							
南	15	-	-	3	19	-	2	1	-	-	-							
右京	9	-	4	11	56	3	-	18	2	-	-	-	-					
伏見	11	-	3	10	95	1	2	3	3	-	2	-	-					
西京	8	2	-	4	30	2	1	5	-	-	-	-	-					
京都市計	80	4	10	42	297	12	8	37	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフル エンザ (※1)	R S ウィルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌 性 髄 膜 炎 (※2)	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プラ ズ マ 肺炎	クラ ミ ジ ア 肺炎 (※3)	感 染 性 胃 腸 炎 (※4)
男女合計																		
北	0.86	0.25	-	-	1.25	0.25	-	-	-	-	-	-	-					
上京	1.20	-	-	1.00	3.33	-	0.33	1.00	0.33	-	-	-	-					
左京	1.00	0.25	-	1.00	8.50	0.50	0.25	0.50	0.25	-	-	-	-					
中京	0.20	-	1.00	1.00	6.33	0.67	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	1.67	-	-	1.00	12.50	-	-	-	-	-	-							
山科	0.71	-	-	0.40	0.60	0.20	-	0.80	0.20	-	-	-	-					
下京	2.33	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-							
南	3.00	-	-	1.00	6.33	-	0.67	0.33	-	-	-							
右京	1.13	-	0.80	2.20	11.20	0.60	-	3.60	0.40	-	-	-	-					
伏見	1.00	-	0.43	1.43	13.57	0.14	0.29	0.43	0.43	-	0.29	-	-					
西京	1.00	0.40	-	0.80	6.00	0.40	0.20	1.00	-	-	-	-	-					
京都市計	1.16	0.09	0.23	0.98	6.91	0.28	0.19	0.86	0.19	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第13週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年3月25日～2019年3月31日

データ入手日:2019年4月3日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ（※1）	年齢1	80	－	1	2	2	2	3	2	3	3	4	3	14	7	10	8	6	4	1	1	4
RSウイルス感染症	年齢3	4	1	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		10	－	－	5	2	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42	－	1	2	3	4	3	6	6	3	－	4	7	1	2						
感染性胃腸炎		297	3	16	44	39	23	28	25	30	14	9	5	22	12	27						
水痘		12	－	1	1	1	－	1	1	2	1	1	1	2	－	－						
手足口病		8	－	3	4	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝染性紅斑		37	－	－	2	2	8	3	5	6	3	4	1	2	－	1						
突発性発しん		8	－	1	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		2	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎（※2）	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
クラミジア肺炎（※3）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染性胃腸炎（※4）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ（※1）	年齢1	1.16	－	0.01	0.03	0.03	0.03	0.04	0.03	0.04	0.04	0.06	0.04	0.20	0.10	0.14	0.12	0.09	0.06	0.01	0.01	0.06
RSウイルス感染症	年齢3	0.09	0.02	－	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		0.23	－	－	0.12	0.05	0.05	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.98	－	0.02	0.05	0.07	0.09	0.07	0.14	0.14	0.07	－	0.09	0.16	0.02	0.05						
感染性胃腸炎		6.91	0.07	0.37	1.02	0.91	0.53	0.65	0.58	0.70	0.33	0.21	0.12	0.51	0.28	0.63						
水痘		0.28	－	0.02	0.02	0.02	－	0.02	0.02	0.05	0.02	0.02	0.02	0.05	－	－						
手足口病		0.19	－	0.07	0.09	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝染性紅斑		0.86	－	－	0.05	0.05	0.19	0.07	0.12	0.14	0.07	0.09	0.02	0.05	－	0.02						
突発性発しん		0.19	－	0.02	0.16	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.05	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	0.02	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎（※2）	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
クラミジア肺炎（※3）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染性胃腸炎（※4）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第13週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年4月3日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	500	293	160	122	123	80
RSウイルス感染症	15	11	8	11	9	4
咽頭結膜熱	10	14	5	11	14	10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	47	46	49	47	42
感染性胃腸炎	259	249	232	238	305	297
水痘	4	4	10	3	15	12
手足口病	3	5	3	5	-	8
伝染性紅斑	39	30	30	28	29	37
突発性発しん	16	12	16	11	18	8
ヘルパンギーナ	-	1	3	1	-	-
流行性耳下腺炎	2	4	2	2	1	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	2	1	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	906	672	516	481	561	500

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	7.25	4.25	2.32	1.77	1.78	1.16
RSウイルス感染症	0.35	0.26	0.19	0.26	0.21	0.09
咽頭結膜熱	0.23	0.33	0.12	0.26	0.33	0.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.33	1.09	1.07	1.14	1.09	0.98
感染性胃腸炎	6.02	5.79	5.40	5.53	7.09	6.91
水痘	0.09	0.09	0.23	0.07	0.35	0.28
手足口病	0.07	0.12	0.07	0.12	-	0.19
伝染性紅斑	0.91	0.70	0.70	0.65	0.67	0.86
突発性発しん	0.37	0.28	0.37	0.26	0.42	0.19
ヘルパンギーナ	-	0.02	0.07	0.02	-	-
流行性耳下腺炎	0.05	0.09	0.05	0.05	0.02	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.20	0.10	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	16.76	13.21	10.67	10.12	11.97	10.93

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。